カーボンプライシングについて

1．カーボンプライシングとは

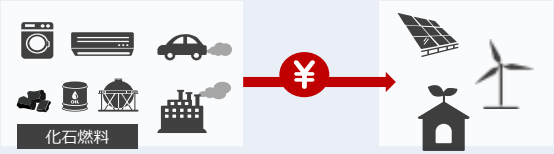
- **カーボンプライシングは、排出されるCO2（二酸化炭素：カーボン）に価格付け（プライシング）する仕組み。消費者や企業に、CO2排出のより少ない製品・行動を経済合理的に選んでもらうためのもの。**
- **各国においては、炭素税・排出量取引・クレジット取引など、さまざまな仕組みを導入・検討。**

2．カーボンプライシングの類型

国内

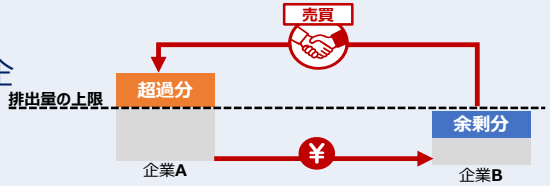
炭素税

- **燃料・電気の利用（＝CO2の排出）に対して、その量に比例した課税**を行うことで、炭素に価格を付ける仕組み



国内排出量取引

- **企業ごとに排出量の上限を決め**、上限を超過する企業と下回る企業との間で「排出量」を売買する仕組み
- 炭素の価格は「排出量」の需要と供給によって決まる



クレジット取引

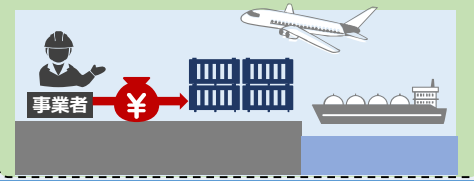
- CO2削減価値を証書化し、取引を行うもの。現在、国内においては、**非化石価値取引、Jクレジット制度、JCM（二国間クレジット制度）**等が運用中。

炭素国境調整措置

CO2の価格が低い国で作られた製品を輸入する際に、CO2分の価格差を事業者に負担してもらう仕組み

※CO2の価格が相対的に低い他国への生産拠点の流出や、その結果として世界全体のCO2排出量が増加することを防ぐことが目的

※EU・米国で検討が進行中



国際

国際機関による市場メカニズム

- 国際海事機関（ＩＭＯ）では炭素税形式を念頭に検討中、国際民間航空機関（ＩＣＡＯ）では排出量取引形式で実施

社内

インターナル・カーボンプライシング

- 企業内で独自に排出量に価格を付け、投資判断などに活用

3．検討方針・スケジュール

- **成長戦略に資するものとなるよう、特定の仕組みに決め打ちせず、間口を広く検討。**
- **年末までに一定のとりまとめ**